

第1号議案 平成29年度事業報告

1 概況

- (1) 神奈川労務安全衛生協会（以下「当協会」という）は、公益社団法人として
- ① 労働安全衛生法に基づく技能講習、特別教育の実施
 - ② 労働基準法、労働安全衛生法及び関係法令の普及啓発活動
 - ③ 労働福祉向上のための相談、調査研究及び広報

3つの事業目的を掲げ、事業場における労働災害のない職場づくり、従業員の心身両面にわたる健康づくり、だれもが安心して健康で働くことができる社会の実現に努めてきた。

併せて、神奈川県下の事業場における労働災害の防止、健康保持増進、適正な労働条件の確保等のための活動を促進し、公益目的事業を推進してきた。

昨年（平成29年）10月19日には川崎市教育文化会館で「神奈川労務安全衛生大会」を開催し、各事業場から約430名が参加して労務安全衛生功労者の表彰を行うとともに事業目的に沿った大会宣言を採択して成功裏に終了した。

- (2) 平成29年の神奈川県内における労働災害の発生状況は、平成30年3月末現在で死亡者数は過去最少であった平成28年の28人より2名増加の30人で、一方休業4日以上の死傷者数は6,551人と前年同期比若干減少した。中でも製造業は、死亡者数6人と前年同期比3人増、死傷者数は1,022人と対前年比1.0%増加くなっている。

平成30年は「第13次労働災害防止推進計画」初年度であり新たな目標の達成に向けて、推進計画で示された重点的に取り組む対策を確実に実施していくなければならない。

- (3) 経済情勢は、世界経済の緩やかな成長が続ければ追い風となり、内需も底堅く推移するとの見方から景気回復が続くと期待されている。また、神奈川県の有効求人倍率が3月で1.19となっており、雇用情勢は引き続き改善されており、今後についても維持されることが期待されている。

当協会の主要事業である教育事業は、平成29年度実績が年間で延べ446回の講習開催となっており、受講者総数で20千名余となっている。

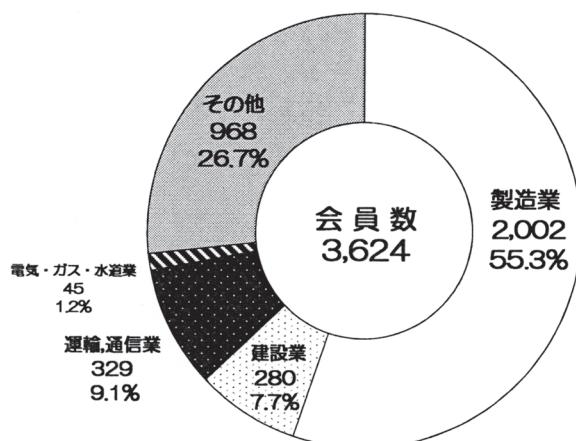
平成29年度の決算は、経常収益が538百万円、経常費用が531百万円となっており、経常外費用7百万円を合わせ正味財産が0.5百万円減となっている。

事業収入の柱となっている技能講習収入が441百万円となっており、技能講習収入増に取り組み事業収支改善を図っている。

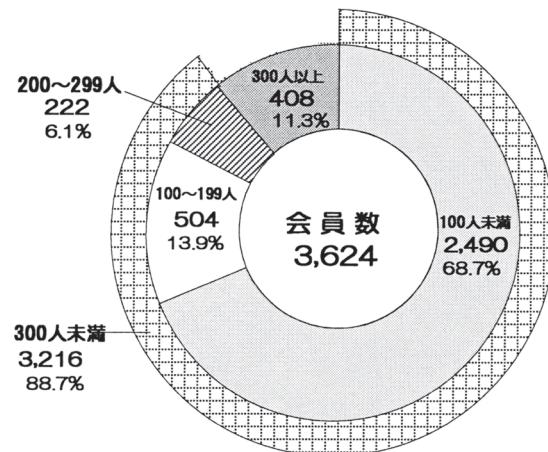
当協会の財務状況は、正味財産期末残高が768百万円で、基本財産と特定資産の合計は659百万円となっている。公益会計基準に則って財政基盤の安定と収支相償の事業運営を目指している。

- (4) 平成29年度末の当協会会員数は3,624事業場となっており、従業員数は約56万1千人となっている。平成29年度の入会は45会員、退会は118会員であった。会員の内訳を見ると、業種別では製造業が約55%、規模別では300人未満で約88%、さらに100人未満では約68%となっている。

1. 業種別会員数



2. 規模別会員数



公益社団法人として、会員事業場のみならず神奈川県下の各事業場に呼びかけ
公益目的事業を展開し、広く社会的評価が得られるような事業活動をしてきた。

併せて神奈川県のご指導をいただきながら、法令遵守のガバナンスと公益会計
基準に則った財務運営を目指して取り組んできた。

【2】 広報・啓発事業

安心・安全な職場づくりに向け労働関係法令の周知を図るとともに、第12次労働災害防止推進計画に基づく目標の達成と労働条件の確保・改善対策等に係る事項に注力して取り組んできた。実施にあたっては、神奈川労働局、神奈川県のご指導の下、神奈川産業保健総合支援センター、中央労働災害防止協会はじめ労働災害防止団体等と連携・協働して周知・啓発等を実施してきた。

平成29年度は、労務安全衛生管理夏季講座や神奈川衛生管理担当者交流会をはじめ人事・労務管理実践セミナー、安全衛生管理実践セミナーなど年間延べ18回開催し、各事業場から多くの参加をいただき、754名の参加人員となっている。

各専門委員会は、労働基準行政の重点課題や労働災害発生状況等を踏まえて、タイムリーな企画や情報提供に心掛け各事業場に参加を呼びかけ研修会やセミナーを開催してきた。

このほか、全国労働基準関係団体連合会神奈川県支部として「新規起業事業場就業環境整備事業」「介護事業場就労環境整備事業」などを推進してきた。

① 労務安全衛生管理夏季講座

平成29年7月20日 ホテル横浜ガーデン 参加者77名

② 神奈川衛生管理担当者交流会

平成30年1月25日 ホテル横浜ガーデン 参加者32名

【研修会・セミナー関係】

研修会・セミナー	回数	人員
産業保健研修会	1	72
人事・労務管理実践セミナー	3	127
安全衛生管理実践セミナー	2	87
安全衛生実務レベルアップ教育	1	31
火災爆発災害防止講習会	2	108
労働衛生工学講座	2	63
総括安全衛生管理者セミナー	1	53
リスクアセスメント実務研修会 (リーダー向け、スタッフ向け)	2	56
新規起業事業場・介護事業場労務管理セミナー	2	48
計	16	645

【3】 神奈川労務安全衛生大会

平成 29 年 10 月 19 日、「平成 29 年度 神奈川労務安全衛生大会」が川崎北支部・川崎南支部の担当で「川崎市教育文化会館」において約 430 名の参加の下、盛会裏に開催された。

大会には、ご来賓として姉崎神奈川労働局長、吉川神奈川県産業労働局労働部長、菊地川崎市副市長、八牧中央労働災害防止協会理事長をお迎えした。

開会に先立ち、労働災害で殉職された方々に哀悼の意を表して全員で黙祷を捧げたあと、当協会の三上副会長の開会の辞に続き、労務安全衛生功労者に協会長賞が授与され、支部別安全競争では優勝、準優勝、努力賞、向上賞がそれぞれ授与された。

細谷副会長の挨拶に続き、ご来賓の方々のご祝辞をいただき川崎南支部長による大会宣言が読み上げられ、会場参加者の拍手で確認・採択された。

平成 29 年 10 月 19 日	川崎市教育文化会館	参加者 430 名
来賓挨拶	神奈川労働局長	姉 崎 猛
//	神奈川県産業労働局労働部長	吉 川 和 宏
//	川崎市副市長	菊 地 義 雄
//	中央労働災害防止協会理事長	八 牧 暢 行
第一部 表彰式		
	労務安全衛生功労賞	63 名
	支部別安全競争 優勝・準優勝・努力賞・向上賞	当該支部
第二部 特別講演	順天堂大学医学部 特任教授	奥 村 康

【4】 機関誌・刊行物関係

協会機関誌「労務安全衛生かながわ」は、昭和 22 年 7 月 20 日に創刊され、足掛け 71 年を迎えており。

「かながわ」は神奈川労働局をはじめとする行政諸官庁のご指導・ご協力により、労務管理や安全衛生に係る法令改正・通達や行政重点施策の周知・解説・災害事例の分析と再発防止策の紹介などタイムリーで幅広い情報が伝えられており、広報・啓発手段として大いに活用されている。また、行政官庁と会員事業場あるいは会員事業場同志の情報交換・コミュニケーションの手段として大いに活用され、会員事業場の管理レベルの向上に寄与している。

- ① 協会機関誌「労務安全衛生かながわ」12 回発行（1回発行部数約 7,800 部）
- ② 各種テキスト改訂

【5】会議報告

【通常総会】

平成 29 年 5 月 30 日、横浜ベイシェラトンホテル＆タワーズにおいて、通常総会を開催した。平成 28 年度事業報告及び決算報告の承認と平成 29 年度事業計画及び予算が報告承認された。

【理事会】

第 21 回	平成 29 年 4 月 27 日	第 22 回	平成 29 年 5 月 30 日
第 23 回	〃 30 年 2 月 27 日		

【副会長会議】【資産運用委員会】

第 1 回	平成 29 年 4 月 12 日	第 2 回	平成 29 年 7 月 26 日
第 3 回	〃 30 年 2 月 1 日		

【企画部会】

第 1 回	平成 29 年 6 月 16 日	第 2 回	平成 29 年 8 月 29 日
第 3 回	〃 11 月 30 日	第 4 回	〃 30 年 2 月 20 日

【支部連絡会議】

第 1 回	平成 29 年 5 月 19 日	第 2 回	平成 29 年 7 月 25 日
第 3 回	〃 9 月 21 日	第 4 回	〃 12 月 8 日
第 5 回	〃 30 年 1 月 15 日	第 6 回	〃 30 年 1 月 29 日
第 7 回	〃 3 月 7 日		

【役員候補者選出委員会】

第 1 回 平成 29 年 4 月 12 日

【関係団体会議】

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 神奈川労働局 | 神奈川メンタルヘルス対策推進連絡会議 |
| 2. 神奈川労働局 | 労働災害防止団体連絡会議 |
| 3. 中央労働災害防止協会 | 総会・理事会・業務連絡会議 |
| 4. (公社)全国労働基準関係団体連合会 | 総会・理事会・事務局長会議 |
| 5. (独)神奈川産業保健総合支援センター | 産業保健総合支援センター運営協議会 |
| 6. 神奈川県交通安全対策協議会 | |
| 7. 神奈川健康づくり推進会議 | |

【6】専門委員会活動報告

総務部会

内容 委員会名	基本方針	活動報告
広報委員会	労務管理・安全衛生管理に関する知識・技術の習得及び会員相互の情報交換に資するため、広報に関する企画立案を行うとともに、協会機関誌「労務安全衛生かながわ」を毎月発行する。	<p>協会機関誌「労務安全衛生かながわ」を通巻818号～830号を発行した。</p> <p>編集にあたっては、読者に「読まれ」「親しまれ」「役立つ」を目指し、内容については神奈川労働局の広報記事、産業医等による健康アドバイス、専門委員会の活動情報、会員事業場の労務安全衛生への取組状況の紹介等幅広い情報を掲載した。</p>
教育委員会	会員事業場における労務・安全・衛生管理の充実を目的に、時代の要請に従い単に法令遵守に留まらず、危害防止の確立・責任体制の明確化及び自主的活動を促進する一助として、各種セミナー・講座等を企画立案し推進する。	<p>労務安全衛生管理に関する諸問題を中心に環境の変化に対応すべく教育内容の更なる充実を図った。</p> <p>「安全衛生実務レベルアップ教育」では安全担当の基礎、衛生管理の基本をテーマに開催した。</p> <p>また「労務安全衛生管理夏季講座」は昨年に引き続き1日コースで実施し、「労働者の高齢化に向けての安全衛生対策」をテーマに第1分科会を担当した。</p>
労働災害統計委員会	労働災害統計の重要性について認識と理解を深め、提出率の向上と統計資料の有効活用を推進することにより災害防止の一助とする。	<p>提出率50%を目標とし、会員事業場の協力を得て半期毎の災害統計を集約し、分析結果を再発防止に活かすべく1月と7月に会員に周知した。</p> <p>また、集約結果をもとに「神奈川大会」で支部別安全競争入賞支部を表彰した。</p>

労務部会

労務管理委員会	会員事業場における労働条件の改善、労働福祉対策の推進、労働基準法をはじめとする労働関係法令の遵守、行政施策の周知を図る。	<p>委員会において、「長時間労働の抑制と過重労働による健康障害防止対策」「治療と職業生活の両立支援を進めるにあたっての労働条件の整備」をテーマとした意見交換を行った。</p> <p>「労務安全衛生管理夏季講座」の第1分科会を担当し、「労働者の高齢化に向けての安全衛生対策」をテーマに開催した。</p>
---------	--	---

安全部会

内容 委員 会名	基本方針	活動報告
プレス委員会	プレス作業主任者技能講習をはじめ特別教育等を効果的に行い、プレス災害防止に努める。	委員が「プレス機械作業主任者技能講習」「動力プレスの金型等の業務に係る特別教育」の講師を担当した。 プレス災害防止総合対策を平成23年の法改正に伴う改定版と災害事例の追加改訂を行った。 優良事業場の見学を通して委員の資質向上を図った。
クレーン委員会	クレーン運転・玉掛け技能者の養成及び技能向上のため各種教育内容の充実を図り、実作業に即応するとともに講習等を通じ安全意識の高揚と災害防止対策の推進を図る。	委員が「床上操作式クレーン運転技能講習」「玉掛け技能講習」「クレーンの運転の業務に係る特別教育」の講師を担当し内容の充実を図った。 クレーン・玉掛け作業に係わる災害事例検討を行い、その結果を協会機関誌に掲載し災害防止対策を推進した。 優良事業場の見学を通して委員の資質向上を図った。
溶接委員会	ガス溶接及びアーク溶接の教育をより一層充実させ、溶接作業に係る災害の防止を推進する。	委員が「ガス溶接技能講習」「アーク溶接等の業務に係る特別教育」の講師を担当した。 ガス溶接及びアーク溶接作業に係る災害事例研究を行い、感電防止マニュアルを作成した。 優良事業場の見学を通して委員の資質向上を図った。
電気委員会	電気による労働災害防止対策の一環として、労働安全衛生規則に基づく「電気取扱業務に係る特別教育」を行うとともに、電気災害防止の一層の推進を図るために方策を検討・実施する。	委員が「電気取扱業務に係る特別教育」の講師を担当した。 電気災害防止の観点から電気安全に関する幅広い啓発を目的に会員への周知を図った。
火災爆発災害対策委員会	会員事業場の火災爆発災害防止対策の向上に資するためニーズに合った講習会の開催、乾燥設備作業主任者技能講習の推進、また火災爆発災害事例を解析し安全ノウハウの提供を行う。	「火災爆発災害防止講習会」を「火災爆発事故防止の基礎、火災爆発事故例と安全リスクアセスメント実施支援ツールの解説と演習」「静電気による火災爆発防止対策の基礎と卓上実験による静電気体験学習&火災爆発事故事例と安全」のテーマで開催した。 火災・爆発災害事例研究を行い、その結果を協会機関誌に掲載した。 優良事業場の見学を通して委員の資質向上を図った。

内容 委員会名	基本方針	活動報告
フォークリフト委員会	<p>フォークリフト運転業務従事者の技能向上と安全及び日常点検の重要性を更に認識させるべく安全衛生教育内容の充実を図り、フォークリフト運転災害の防止を推進する。</p>	<p>委員が「フォークリフト運転技能講習」「フォークリフトの運転の業務に係る特別教育」「フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育」の講師を担当した。 フォークリフト災害事例研究を行い、その結果を協会機関誌に掲載した。</p>
一般機械災害対策委員会	<p>金属・木工等の加工機械（プレス及び新技術応用機械を除く）による災害防止のため、これらの機械を正しく取り扱うための安全衛生教育を行い、災害防止の活動を啓発推進する。</p>	<p>在来型災害（はざまれ、巻き込まれ、切れ、こすれ）防止対策の事例研究を行い機械を正しく取り扱う安全衛生教育を実施し、また事例研究を協会機関誌に掲載し啓発に努めた。 災害事例検討や優良事業場見学を通して委員の資質向上を図った。</p>

第三次産業部会

卸売小売業委員会	<p>卸売小売業における労働者の適正な労働条件並びに安全と健康の確保対策の推進を図る。</p>	<p>ハラスマント対策の実施状況について、各委員から発表を行い、今後の対策の推進について意見交換を行った。 治療と職業生活の両立支援の推進に向けた労働条件の整備等の環境整備の取り組みについて意見交換を行い今後の課題等について検討した。</p>
----------	---	---

労働衛生部会

内容 委員会名	基本方針	活動報告
保健対策委員会	産業医の立場で、働く人々の健康を確保するために、職場における健康障害リスクから労働者を保護し、それに関連する健康障害要因の予防を目的とした保健対策を展開する。	労働衛生専門職の総合力が発揮されるよう関連各専門委員会と連携協力に努め、産業保健分野の充実に寄与した。規模50人以上の会員事業場を対象に、健康指標アンケート調査を実施し、調査結果の分析を行った。 委員が「第一種衛生管理者養成講習」及び労働衛生に係る技能講習の講師を担当した。
労働衛生技術委員会	これからの中作業環境管理・作業管理のあり方を、主として衛生工学的な面より調査・研究し、その成果の普及を図ることにより、職場の衛生管理水準の向上に寄与する。	「労働衛生工学講座」を「化学物質管理のためのリスクアセスメント講座」をテーマに2回開催した。 委員が「局所排気装置等定期自主検査者講習」「ダイオキシン類作業従事者特別教育」「安全衛生管理実践セミナー」及び労働衛生に係る技能講習の講師を担当した。 「労務安全衛生管理夏季講座」及び「神奈川衛生管理担当者交流会」の開催に協力し、参加した。
衛生管理推進委員会	衛生管理者及び衛生管理担当者の事業場における適正かつ効果的活動支援のため研修会や情報交流会、能力向上教育を通して資質の向上を図る。	「神奈川衛生管理担当者交流会」を開催し、衛生管理者の役割について事例発表等を行い、グループディスカッションでは衛生管理者の役割、メンタルヘルス対策、受動喫煙防止対策など5つのテーマに分かれ討議を行った。 「労務安全衛生管理夏季講座」の第3分科会を担当し、「過重労働対策の進め方」をテーマに開催した。 委員が「衛生管理者能力向上教育」及び労働衛生に係る技能講習の講師を担当した。
産業保健活動委員会	1 従業員が健康で安心して働くことができるよう、健康障害の予防及び健康的保持増進活動において、専門的立場から助言及び支援並びに関連する情報の提供等を行う。 2 産業保健職の資質の向上、役割の自覚及び専門分野でのレベルアップを図る。 3 各支部における産業保健活動の充実と活性化を図るために支部間の連携を密にし、かつ関連情報等の提供及び収集に努める。	「労務安全衛生管理夏季講座」の第2分科会を担当し、「職域で活用するアサーション・トレーニング」のテーマで外部講師による講演を行った。 「第87回 産業保健研修会」において、「職域における発達障害への対応について」をテーマに開催した。 各支部間の連携を図るため、委員会において各支部の活動状況報告や意見交換会を積極的に行い、産業保健情報の共有化に努めた。
救急法指導委員会	救急救命・応急手当の最新の知識と技術を習得し、事業場等における安全思想とプレ・ホスピタルケアの必要性を養うとともに、労働災害防止と安全衛生教育の推進を図る。	「救急法講習（基礎+短期）」を開催し、救急法の普及と救急救命・応急手当の最新の知識と技術等の習得、技術向上に努めた。 委員が「酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習」の救急法実技の講師を担当した。

3 表 彰

(1) 協 会

平成 29 年度神奈川労務安全衛生大会の席上、次の方々及び支部を表彰した。

<労務安全衛生功労賞>

福田 洋士	日本冶金工業(株)川崎製造所
江島 恒敏	(株)光洲産業
片貝 敏彦	旭ダイヤモンド工業(株)玉川工場
木下 尚映	三菱ふそうトラック・バス(株)
佐藤 好晃	(株)富士電機フロンティア
中川 靖之	プレス工業(株)川崎工場
靉 巢 修	川崎化成工業(株)川崎工場
渡辺 悟	JFEスチール(株)東日本製鉄所(京浜地区)
吉内 加代子	東洋製罐(株)テクニカル本部
奈須 良人	(株)東芝 京浜事業所
遠藤 賢右	(株)J-オイルミルズ 横浜工場
井上 真人	医療法人社団 相和会
鈴木 徹	JXTGエネルギー(株)横浜製造所
三品 浩	トオカツフーズ(株)
河原本 裕二	三菱ケミカル(株)横浜研究所
野田 勝長	(株)京浜美装
萩原 和子	(公社)神奈川労務安全衛生協会横浜北支部
谷口 恭一	高田工業(株)
青木 洋一	日本飛行機(株)航空宇宙機器事業部
小橋 武志	電源開発(株)磯子火力発電所
下山 博実	芝浦メカトロニクス(株)本社・横浜事業所
若林 謙二	(株)ブリヂストン横浜工場
中田 直子	(株)タツノ横浜工場
山田 一智	京浜発條(株)
石渡 実	(株)北斗
阿諱訪 直樹	(株)湘南ユニテック
山口 稔	敷島製パン(株)パスコ湘南工場
高橋 明彦	TOTO(株)茅ヶ崎工場
平木 資広	トピー工業(株)神奈川製造所
三宅 紀秀	神鋼溶接サービス(株)

橋本 紳司 (株)トープラ 秦野工場
松岡 泰夫 第一三共プロファーマ(株)平塚工場
片岡 浩 三菱ケミカル(株)平塚事業所
高橋 千之 大東化学(株)平塚工場
小林 勝年 (株)日立情報通信エンジニアリング
芦川 義幸 (株)明治ゴム化成
谷田部 浩史 (株)カネカメディックス神奈川事業所
川口 聖人 相日防災(株)
高岩 映善 三菱重工エンジン&ターボチャージャ(株)
濱口 優治 日本電気(株)相模原事業場
翁 大地 日本山村硝子(株)東京工場
花房 のり子 (公社)神奈川労務安全衛生協会相模原支部
桐部 明 日産自動車(株)テクニカルセンター
塩見 裕 日立オートモティブシステムズ(株)厚木事業所
久保 由美 (株)リコーエクノロジーセンター^{リコー}
石岡 博昭 (株)神戸屋 海老名事業所
石井 政和 大久保歯車工業(株)
戸倉 章 横浜乳業(株)
大河原 敏郎 日立オートモティブシステムズ(株)相模事業所
瓦井 雅和 アイダエンジニアリング(株)
鳴海 勝 JFE物流京浜(株)
鈴木 貴代美 (株)リコー
亀井 三貴子 (株)岡村製作所 追浜事業所
日沼 義浩 (株)ガステック
有本 雄美 (株)ガステック
中丸 宜志 (前)(株)ガステック
男山 博 (公社)神奈川労務安全衛生協会
成田 敏夫 (公社)神奈川労務安全衛生協会
平塚 豊 (公社)神奈川労務安全衛生協会
野口 節生 (公社)神奈川労務安全衛生協会
大丸 康二 (公社)神奈川労務安全衛生協会川崎南支部
澤口 倫子 (公社)神奈川労務安全衛生協会
中道 清美 (公社)神奈川労務安全衛生協会

<支部別安全競争入賞>

優 勝 川崎北支部
準 優 勝 藤沢支部
努力賞 相模原支部
向上賞 川崎南支部

(2) 厚生労働省

① 厚生労働大臣表彰及び顕彰

厚生労働大臣 奨励賞

株竹中工務店 横浜支店 横浜アリーナ大規模改修工事
鹿島建設株横浜支店 専修大学新生田2・3号館（仮称）新築工事
IHI・川田特定建設工事共同企業体（高負） YK42工区（1-2）
YK43工区（B（1）・D（1）連結路）上部・橋脚工事

厚生労働大臣 安全衛生推進賞

能勢俊一 (独)労働者健康安全機構
神奈川産業保健総合支援センター 産業保健相談員
後藤昌弘 (独)労働者健康安全機構
神奈川産業保健総合支援センター 労働衛生専門職

安全優良職長厚生労働大臣顕彰

秋山新二 日本リライアンス株
露木直人 三菱ケミカルハイテクニカ株小田原テクノセンター

② 神奈川労働局長表彰

神奈川労働局長 優良賞

株小松製作所 湘南工場

神奈川労働局長 奨励賞

日吉電装株川崎工場
アップコン株
久喜ロール工業株横須賀事業所
株ヤクルト本社 湘南化粧品工場
小田原瓦斯株
住友電気工業株横浜製作所

神奈川労働局長 功績賞

八 卷 憲 男

村 上 稔

神奈川労働局長 安全衛生推進賞

三澤 真理子

(3) 中央労働災害防止協会

① 緑十字賞

秋 谷 泰 男 秋谷労働安全衛生コンサルタント事務所

矢崎 ますみ 労働衛生コンサルタント事務所 Y・カノン

② 中小企業無災害記録証

タイメック株湘南工場 1,950 日 (第3種)

株アサヒ 2,250 日 (第4種)

中井開発株生産部 4,500 日 (第4種)

③ 全国THP推進協議会表彰

全国THP推進協議会 功労賞

白 石 慶 子